

## ニガウリ（レイシ）のカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	方法	資材
本畑の地力作り	なるべく早い時期に投入し、なるべく深く耕耘しておきます  (定植までに20日以上の間隔をおいて下さい)	<b>ラクトバチルス 600g</b> …通気・保水・保肥性がよく、深層まで肥沃な土に。 <b>堆厩肥 1トン以上</b> (なるべく多く) ※前作の茎葉もなるべくスキ込み。 <b>硫安 80kg</b> (N:16kg前後) ※(堆厩肥が少ない場合には 硫酸カリ 20kg 追加) ※このチツスは微生物により有機化・地力化して、ジワジワと効きます。定植時は土壌EC:0.2以下と、無機チツスが抑えられていること。 ※もし土壌pHが極端に酸性(pH:5.5以下)なら、地力作りにも畑のカルシウム60kg(以上)を投入し、かつ、下記、整地時にも施します。 好適pHは常時6.0~6.5です。pH:6.5以上にすると徒長・過繁茂になりやすい。pH:7.5は決して好適ではありません。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に散布  (全面散布、またはウネ上散布)	<b>畑のカルシウム</b> (またはカルテックCa粒状) <b>60kg</b> ※カルシウム量はチツス量以上に、 <b>多めの施用</b> をお勧めします。 ※もし特に心配な畑で農薬の土壌消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、 <b>ラクトバチルス</b> を補ってください。(同時施用可能)
育苗	床土(培土)	培土に <b>畑のカルシウム</b> 3%ほどを混和しておくか、鉢上げ後の培土なら1ポット当り20グラム程を置き肥すると、徒長せず充実した苗に。
	散水時に散布  ※灌水は控えめに。 ※本葉2枚で若苗を定植	<b>濃縮酵素液 (500倍)</b> …根を強く動かし、生長を促進、シオレ防止 <b>カルテックCa液状 (500倍)</b> …茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作る ※播種後、3日間隔、始めの1週間は1000倍、以後は500倍で、 <b>交互に葉上からタツプリ</b> 散布し、茎が太く、葉の厚い苗を作ります。 ※定植3日前には、苗の引締め・仕上げに、 <b>Ca液状</b> を散布・充実させます。
植付け時	苗のドブ漬け・植付け直後の灌水	<b>濃縮酵素液 500倍液</b> …活着・初期の根張り促進 《必須》 ※ツル割れ・土壌障害の対策。
定植後20日 (着果開始の前)	(根と体質を作る) <b>初期の灌水使用</b> (または葉面散布)	① <b>濃縮酵素液 2リットル</b> 灌水 (倍率は300倍程度) ※定植から半月間のうちは、 <b>なるべく灌水回数を少なくして</b> 、自力で活着させます。日中、少々萎れるくらいは構いません。 <b>灌水する時は、酵素液を混ぜタツプリ深く手灌水し、太根を伸ばします。</b> (ツル先までの長さより根のほうが長くのびていること。) ※ <b>主枝5~10節で摘芯</b> 。その日に <b>酵素液を灌水して、側枝の根を強める。</b> ② <b>カルテックCa液状 500倍 葉面散布</b> または2~4リットル灌水 ※扇型に誘引した側枝が棚の半分程を覆う頃までに、カルシウムを与えて、孫ヅルの過繁茂を防ぎ、葉を厚くし、花と着果をよくします。 ※ <b>着果開始前に、カルシウムを灌水または葉面散布して、花を強く。</b>
着果開始後、収穫中	半月周期で、 <b>灌水</b> および <b>葉面散布</b>	① <b>濃縮酵素液 2リットル</b> 灌水 …根の強化、草勢の強化、実の伸び。 ② <b>カルテックCa液状 2リットル</b> 灌水 …引締め、生殖生長、うどんこ予防 ※ <b>多量・多回数の灌水が必要ですが、ナマ水でなく、どちらかを混ぜて灌水。</b> ※ <b>両液を交互に(7日ごと) 葉面散布</b> 。葉を厚く、花を強く、実成りを維持します。
追肥	(収穫ピーク時に遅れずに第1回。以後、1月ごと)  ※なるべく株元から遠くまで、全面・均一に散布	<b>硫安 20kg</b> (~30kg) <b>畑のカルシウム 20kg</b> (~40kg) <b>※常に同時施用して栄養バランスを維持</b> ※栽培中に土壌が酸性(高EC)になった時は、カルシウムで回復します。 ※カルシウム不足や疲労時・高温時には 果実の成熟(過熟)が速く、濃緑色の果実が収穫後、果皮にツヤが出て 内部(種皮)が赤変し 果皮の先端部から黄変する「 <b>過熟果</b> 」が多くなります。この徴候が現われたら、ただちに <b>畑のカルシウム</b> 散布・ <b>濃縮酵素液</b> の灌水を行ってください。

